

^{したら} 設楽ダムのネコギギの保全と野外実験について

はじめに

現在、国土交通省中部地方整備局では豊川水系豊川に設楽ダムの建設を予定しています。この豊川には、国の天然記念物であるネコギギが生息していますが、このダムの建設およびダム完成により、ネコギギの生息環境に影響を与えることが予測されています（「豊川水系設楽ダム建設事業に係る環境影響評価書」、国土交通省 中部地方整備局、平成19年6月公告・縦覧）。このため、設楽ダム工事事務所では、ネコギギを対象とする環境保全措置を実施するとともに、豊川水系のネコギギの保全に取り組んでいきます。

ネコギギの保全に向けて

どうすればネコギギを保全することができるかということについては、まだ不明な点が多くあります。当事務所では、ネコギギの保全手法を確立するために、専門家の指導・助言を得ながら下記の検討を行ってきました。

- ・豊川水系におけるネコギギの過去からの生息分布の変遷
- ・豊川水系におけるネコギギの現在の生息分布状況
- ・ネコギギの生息場として適する場所の評価
- ・生息環境の整備の方策の検討（ネコギギの繁殖場、隠れ場となる間隙の整備等） 等

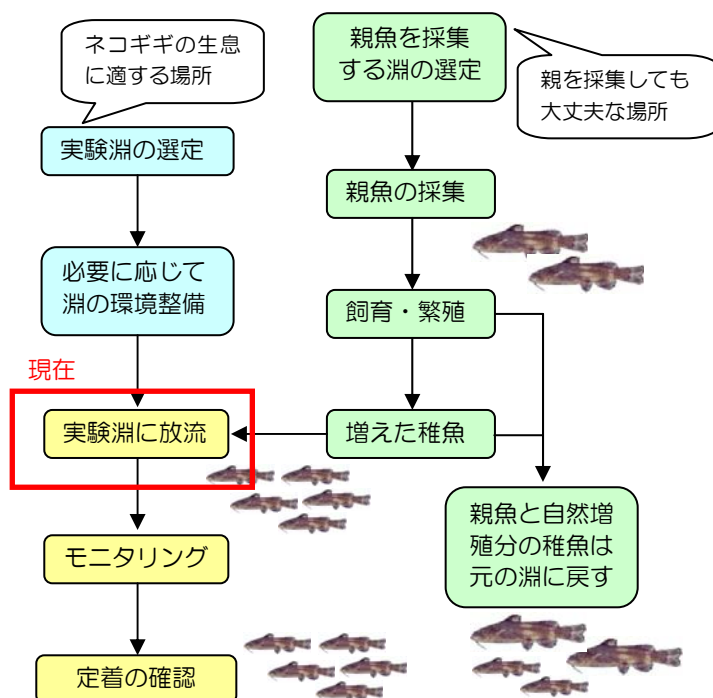
これらの結果を用い、環境保全措置の一つとして、現在は生息していない場所を新たな生息地として回復させることを検討しています。

野外実験について

取り組みの第一歩として、「ネコギギの生息に適すると考えられる場所」にネコギギを放流し、定着することができるか（世代をくり返すことができるか）を確認するという野外実験を行っています。これにより、生息場として適する場所の評価をより確実なものにすることができます。

しかし、豊川のネコギギは個体数が少ないため、実験に用いるために多くの個体数を採集すると、現在生息している個体群へ影響を与えてしまう（個体群が絶滅する）可能性があります。

そこで、ネコギギを飼育下で増殖し、その増えた分の個体（遺伝的な配慮をしたもの）を実験に用いることとしました。

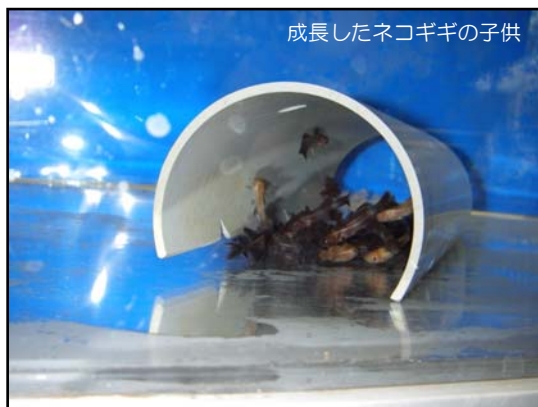
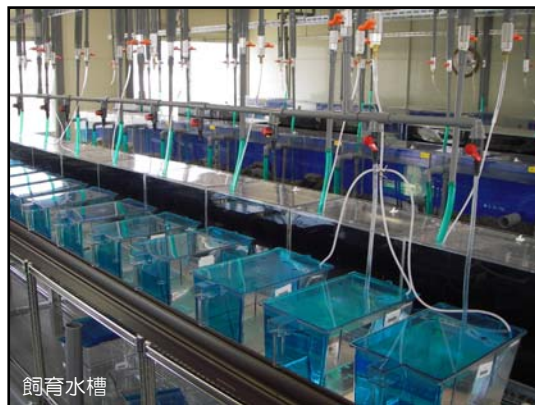


ネコギギの飼育・繁殖について

ネコギギは、自然界では、^{ふか}孵化してからある程度成長するまでの間に減少する割合が高いため、この期間を飼育下におくことで、多くの個体を得ることができます。このためまだまだ不明な点が多い飼育・繁殖する技術が確立できれば、希少種であるネコギギの種の保存のためにもつながると考えています。

ネコギギの繁殖に成功、そして野外への放流

今年、5月～6月にかけて野外から親個体を25個体採集し、飼育下で繁殖させました。この中の2ペアが7月に産卵・孵化に成功し、約240個体の稚魚が元気に育ちました。これらの稚魚のうち、100個体を10月31日にネコギギの生息に適していると考えられる^{とよがわ}豊川の野外実験淵に放流しました。放流してから5日後の、11月5日には稚魚が無事に生息していることを確認しました。



放流個体のモニタリングに着手

今後、放流した個体が継続的に生息し、定着すること（世代をくり返すことができるか）をモニタリングにより確認していきます。

今後の予定

当事務所では、今後も野外実験を進めていくなど、ネコギギの保全技術の確立につなげていきます。